

第四回 「戸村家文書に見る秋田戊辰戦争」

【原文】（「太政官沙汰書写」 A T 二二二・一一二）



佐竹右京太史

萬石被

石被長御主全公平

衆議ヲ可被落採

思下ノ所意國ノヤ

突然干戈至リ終大

號令被發長通ノ者

【解読文】

佐竹右京大夫

兼て被

召設候儀は、全公平

衆議ヲ可被為採

思召之所、豈凶んや

突然干戈二至り、終二大

号令被発候通二付、各



国力相応人数引纏

速二上京可有之

御沙汰候事

正月

但、氣急御時節二付

速二上京勿論候得共、

遠近も有之事故、凡之所

在京重役、或は留主居共

見込之趣可申出、其上

御沙汰之旨も可有之

尚又當主所勞等二て

上京難致向は、名代又

家老之者可差出候事

三三九事抄四四四

御沙汰之旨も可有之。

尚又当主所勞等二て

上京難致向は、名代又は

家老之者可差出候事。

【原文】（「太政官沙汰書写」AT二二・一一三）

【解説文】

佐竹右京大夫

就徳川慶喜叛逆、為

追討、近日

官軍、自東海・東山・

北陸三道可令進発

之旨被

仰出候。附ては奥羽

之諸藩臣知尊

王之義相去謀援

之師討之勢旨

中沙汰後事

月

之諸藩、宜知尊  
王之大義相共謀、援  
六師征討之勢旨  
御沙汰候事。

正月